

キムジャン
김장文化キムシンヒョン
太宰府市国際交流員 金辛泓

キムジャン
김장とは、晩秋や初冬にかけて、冬の間に食べる大量のキムチを漬ける韓国の家庭にとって一大行事です。春に塩辛を漬けるところから始まり、初秋には唐辛子やニンニクの準備、野菜の収穫など、準備だけでも半年以上かかります。一家のキムジャンのために、大量の白菜を洗って大根を千切りし、味を整えるだけでも2〜3日かかるので、親戚や地域の人と互いに助け合いながら行う風習がありました。この文化はユネスコの無形文化遺産にも登録されています。

しかし、最近ではこのあり方が変わってきました。核家族化や献立の欧米化、外食の普遍化などにより、家庭で消費するキムチの量は減りました。また、都市化により地域住民の交流が減ったことや、保存技術の発達により1年中、市販のキムチも多く出回るようになったことも背景にあります。

わが家では、毎年11月に家族みんなでキムジャンをしています。漬け方は、地域で材料や方法が異なり、郷土色がよく見えます。祖母の家は、海が近い韓国の南部울진(ウルジン)に位置しているため、塩辛をたっぷり使い、濃い味付けをするのが特徴です。



▲母方の祖母の家でキムジャンをする様子

人権標語

だれにもね
一人一人の
色がある太宰府南小6年
(応募時) 高田 駿斗さんかわさき じゅんこ
川崎 純子
(高雄区) 池坊花材 バラ、アストランチャー
シロタエギクの葉
くそかずら、ラン、モス

季節の生け花

太宰府市華道連盟

つれづれ

太宰府短歌会

追い山の雨降れ男等の固い
締め込み濡らせ身の熱さませ
福岡市 竹森 祐彦
稜線は仏の寝姿と語りたり
笠智衆に似る宿の主は
糟屋郡 仲道 朋子
伴走者のおかげと壮行会の日の
道ちゃんの目に光るものありき
大佐野台 宮崎 フミ人參さんがフランクしてると言っ孫の
指差す先に鳥瓜ゆる
湯の谷 山崎八重子電車より筑後平野にこんもりと
鎮守の杜の神奈備で見ゆ
五条 山田乃ぞみ

太宰府俳句会

持永 真理子 選

秋高し賑はひ戻る都府楼址
国分 松尾 満子政治家の胸見て気付く赤い羽根
連歌屋 吉嗣のり子自づから募金活動赤い羽根
五条 兼田和加子朝日受け白き輝き秋の雲
高雄 西元 治雄幼子のリュックの背に赤い羽根
朝倉郡 高尾ゆうこ

飛梅句会

介弘 紀子 選

庭萩に今日一日の黙を解く
青葉台 平野 香山門を入れば風ありこぼれ萩
朝倉市 味噌ふじ子萩の風纏ひて歩く裏観世
青葉台 本山 晴子鷗尾と萩いづれも清し観世音
星ヶ丘 江里口幸生白萩に心ひかるる齢なり
大佐野台 金丸 恵子

宝満句会

菅井 久美子 選

秋簾聞くとほなしに聞く話
観世音寺 野田 杉子川風に灯の濡れてある秋簾
長浦台 徳賀美智子一同の集ふる里秋簾
筑紫野市 名本 剛秋簾汚れいとはぬ独居かな
高雄台 荒島由美子奥座敷まだ下げてあり秋簾
大野城市 稲岡とみ子

都久志てんじん句会

佐々木 甘露子 選

秋風をブレンドしたる今朝の風
福岡市 北川朴洋子骨片を砕きて収む白露の日
福岡市 宮津英里子微睡て鳴く虫かはる夜の風
筑紫野市 寺田 恵子母の笑み母の声せし台風裡
筑紫野市 高田 幸子からつぽの麵つゆ捨てて八月尽
小郡 貞金 志帆

太宰府川柳倶楽部

小池 一恵 選

診察券並べて今日は此処とココ
松川 山根 清はいのトーンでわかる子のやる気
筑紫野市 吉田 敬子問いかけと答えてくれぬ父の墓碑
大野城市 野田 茂生AIの力を借りて出す答
観世音寺 松浦 ちえ編みたくて夢中で糸をかき集め
福岡市 迎 あゆ子